

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市内及び周辺に約1,000箇所存在するといわれるファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2017年1月現在，リオ市内に計39のUPPを設置し，約270のファベラを管轄）。

積極的なUPPの導入，活用により2008年以降リオの治安は一旦改善に向かったものの，2013年頃より伯経済の低迷を背景として，再び悪化している。特に2016年に入ってから，リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的手当を十分に施すことが困難となったこともあり，特にオリンピック・パラリンピックが終了した年後半から急激に体感治安は悪化している。

- (2) UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。
- (3) リオ州政府としても，治安を担当する公安局が中心となり，UPPと街頭警備強化を二本柱として，2013年から再び悪化傾向にある一般治安の改善に取り組んでいるが，現状では，州の財政難による警察力の低下（超過勤務の抑制，装備・資器材の使用制限等）にも起因して，2016年初頭から強盗等の凶悪犯罪の増加に歯止めをかけられない状況にある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 第3四半期総括

リオ州公安局統計院（ISP）によれば，2016年1月から10月までに発生した路上強盗事件の発生件数は10万4,302件で，去年同期（7万0,582件）と比べて47.8%増加している。また，殺人事件に関しても，2016年1月から10月までの発生件数は4,111件と，去年同期（3,478件）と比べて18.2%増加している。第3四半期中，下記6.のと

おり邦人が被害者となる強盗事件等が連続発生するなど、リオ市内の体感治安は大きく悪化している。特に観光地である旧市街地（セントロ地区）の水道橋、カテドラル（大聖堂）周辺において、邦人が複数人に囲まれ、現金等を脅し取られるケースが相次いでおり、注意が必要である。

また、8月中のリオ市における交通機関内強盗（バスジャック事件が多数を占める）の発生件数は1,544件で、前年（739件）比805件増加しており、引き続き市バスの利用には十分な注意が必要である。

なお、2015年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約25倍（2014年は23倍）、強盗は約660倍（2014年は510倍）と極めて高い比率で推移している。

3. リオ州犯罪発生状況 2016年10月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	462 (+80)	100 (+1)
強姦	412 (+29)	128 (±0)
商業施設強盗	642 (+130)	245 (+10)
住居侵入強盗	110 (+1)	44 (+1)
車両強盗	4182 (+1681)	1779 (+480)
路上強盗	8980 (+3857)	4029 (+1182)
交通機関内強盗	1544 (+805)	820 (+415)
携帯電話強盗	1952 (+866)	1014 (+386)
強盗総数	20242 (+8225)	9524 (+2926)
窃盗総数	13701 (-481)	7830 (+219)

4. ZONA SUL 犯罪発生状況 2016年10月（前年比）

(1) フラメンゴ・ポタフォゴ地区

殺人	0 (-1)
商業施設強盗	19 (-2)
住居侵入強盗	1 (-1)
車両強盗	10 (-24)
路上強盗	114 (-3)
交通機関内強盗	18 (+8)
携帯電話強盗	37 (+15)
強盗総数	235 (-14)
窃盗総数	485 (+52)

(2) コパカバーナ地区

殺人	0 (±0)
商業施設強盗	10 (+7)

住居侵入強盗	1 (- 1)
車両強盗	4 (+ 4)
路上強盗	6 9 (+ 4 4)
交通機関内強盗	6 (± 0)
携帯電話強盗	1 6 (+ 1 0)
強盗総数	1 4 9 (+ 8 1)
窃盗総数	6 2 0 (+ 1 4 9)

(3) イパネマ・レブロン地区

殺人	1 (- 2)
商業施設強盗	6 (- 4)
住居侵入強盗	2 (+ 2)
車両強盗	3 (- 1)
路上強盗	7 4 (+ 4 1)
交通機関内強盗	1 5 (+ 1 1)
携帯電話強盗	1 6 (+ 1 1)
強盗総数	1 4 6 (+ 7 3)
窃盗総数	4 6 1 (+ 1 0 7)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

(1) 幹線道路沿いで集団強盗が発生

10月18日（水）午前8時頃、ガレオン国際空港からリオ市のセントロ方面に向かう幹線道路（リーニャ・ヴェルメーリャ）において、集団強盗（アハスタオン）が発生し、少なくとも数名が近くの第17文民警察署に被害届を提出した。被害者によれば、犯人グループは3人で、上記リーニャ・ベルメーリャのカジュ（Caju）地区付近（セントロ方面）を通行する車両を停車させて渋滞を引き起こした後、けん銃で運転手を脅しながら、現金、電子機器等を次々と強取した。現場では、強盗を察知した車両がバックするなどして混乱し、空港からセントロ地区に向かう路線で大きな渋滞が発生した。

(2) ボタフォゴ地区で銃撃戦が発生

10月20日（木）午前中、リオ市ボタフォゴ地区ヴェンセスラウ・ブラス通り（AV. Venceslau Braz）ヨット・クラブ「Iate Clube」前において、武装した男2名が上記会員制のヨット・クラブを出ようとした車両（メルセデス・ベンツ）を襲ったところ、車内にいた警備員との間で銃撃戦が発生し、犯人2名が銃撃を受けて負傷、近くの病院（Hospital Miguel Couto）に搬送されたほか、近くの車内にいた女性一名も怪我を負った模様。

(3) 市内で軍警察と麻薬密売組織との抗争が激化

11月19日（土）、リオ市内西部に位置するファベラ（スラム街）、シ

ダージ・デ・デウスにおいて、当地の麻薬密売組織同士の抗争に対して、軍警察による大規模な作戦が実施された。同作戦を通じて少なくとも住民7人の遺体が発見されたことに反発したシダージ・デ・デウスの住民グループが。同日、BRT（高速バスシステム）トランス・カリオカ線のDivina Providencia 駅を襲撃して同駅は閉鎖された。また、11月21日早朝、市内中心部とガレオン国際空港との間に位置するマレスラム街において、UPP（軍警察平和構築部隊）、軍警察機動隊、BOPE（軍警察特殊部隊）による麻薬密売組織に対する大規模な合同オペレーションが実施されたほか、連日、市内のファベラにおいて麻薬密売組織同士の及びUPPによる掃討作戦が行われており、特に幹線道路を中心に安全への悪影響が懸念される。

（4）幹線道路沿いでバス強盗が連続発生

11月以降、ガレオン空港近くのフンダオン島に所在するリオ連邦大学からセントロ地区に向かうバス（485番線）を狙ったバス強盗が連続発生している。現場は同島からリーニャ・ベルメーリャ通りに合流する地点で、同所を管轄する第22州軍警察本部では警戒を強めている（上記犯罪統計のとおりリオ州全域でバス強盗の発生件数が激増しており、市バスの利用には十分な注意が必要）。

（5）ファベラに迷い込んだイタリア人観光客が殺害

12月8日（土）午後0時ころイタリア人観光客2名がオートバイ（2台）でコルコバードの丘（キリスト像）を訪れ、帰りに誤ってサンタテレザ地区のファベラであるPrazeres 地区に入り込んだところ、うち1名が同ファベラ内の麻薬密売組織に身柄を拘束された。拘束されたイタリア人（52歳）は、頭と腕をけん銃で撃たれ、殺害された。州警察では、同ファベラ内からイタリア人男性の遺体を搬送し、オートバイ2台を差し押さえた。もう一名のイタリア人観光客については無事が確認されている。

6. 邦人被害

（1）強盗未遂事件

10月12日（水）午後2時頃、リオ市内旧市街のラパ地区において、日本人2名がリオ市ラパ地区の水道橋前広場からカテドラル（大聖堂）へ向かう路地に入ったところ、ナイフを所持した少女1名が近づいてきて、日本人男性がたすき掛けにしていたカメラの紐を切り裂き、同カメラを持ち去ろうとした。その後、すぐさま日本人男性は同女を追いかけ、奪われたカメラを取り返した。

（2）窃盗（置き引き）事件

11月12日（土）、午後1時頃、リオ市イパネマ地区Vieira Souto通り（海岸・ポスト9付近）において、日本人男性が「Quiosque（キオスク）」と呼ばれる簡易店舗において友人らと昼食を取っていたところ、バッグ（携帯電話、財布等在中）の置き引き被害に遭った。

（3）強盗致傷事件

11月29日（土）、午後7時頃、リオ市バツハ・ダ・チジューカ地区（「リーニャ・アマレーラ」と「アイルトン・セナ通り」との交差点付近）において、邦人がバスから下車し、タクシーを拾おうと道路脇に立っていたところ、2人乗りのオートバイが現れ、後部座席に乗っていた男が邦人の持っていたバッグをひったくろうとした。邦人がバッグを（盗まれまいと）強く握りしめたところ、しばらく引きずられ、そのままバッグを持ち去られた。バッグの中にはパソコン、携帯電話、腕時計等が在中していた。同邦人は引きずられた際に擦り傷を負ったが軽傷だった。

（4）強盗事件

12月22日（木）正午頃、リオ市内ラパ地区カテドラル（大聖堂）近くの路上において、日本人女性1名が少年3人に取り囲まれ、所持していたバッグ（財布、携帯電話等在中）を渡すよう要求された。女性が素直にバッグを差し出したところ、少年らはバッグを奪って逃走した。

（5）強盗致傷事件

12月25日（日）午前9時頃、リオ市ラパ地区水道橋前広場において、日本人男性が少年5人に囲まれ、所持していたバッグ（財布、携帯、カメラ等在中）を渡すよう要求された。男性が抵抗したところ、顔面（右目部）を殴られ、バッグを奪い取られた。男性は軽傷だった。

（6）強盗事件

12月29日（木）午後2時頃、邦人男性がリオ市ラパ地区のカテドラル（大聖堂）付近（チリ通り（AV. Cnile））を歩いていたところ、5、6人の若者に囲まれ、うち一人からナイフを突きつけられて、所持品を渡すよう要求された。被害者がスマートフォン、現金等を渡したところ、犯人らはその場から立ち去った。

（7）強盗致傷事件

12月31日（土）午後2時頃、邦人男性がリオ市内ラパ地区の水道橋前広場を歩いていたところ、4人の若者に囲まれ、うち一人からナイフを突きつけられて、所持していたバッグ（財布、スマートフォン、時計等在中）を渡すよう脅され、そのままバッグを持ち去られた。被害者はその際、指先に擦り傷を負ったが軽傷だった。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2016年10月中、リオ州内で短時間誘拐3件（うちリオ市2件）、脅迫162件（うちリオ市87件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。